

第5回社会保障研究奨励賞授賞論文

○ 第1席

岩本広史（ペンネーム）——石倉寛治（社会保険庁 医療保険部 船員保険課）および多田宏（大蔵省国際金融局投資第2課）

「転期にたつ厚生行政」『社会保険旬報』第961～969号，昭和45年3月～5月。

○ 第2席

市川 洋（経済企画庁経済研究所主任研究官）

「社会保険関数の試作（中間報告）」『経済分析』第29号，1970年2月。

選考経過

大内基金委員会は，社会保障研究所後援ならびに厚生省協賛のもとに，第5回社会保障研究奨励賞として，上記2編の論文の授賞を決定した。ここに，論文審査委員会を代表して，授賞決定に関する選考経過を報告したい。

今回の授賞は，昭和44年8月から昭和45年7月にいたる1年間の既発表論文を対象として行われた（本誌第5巻第4号，30ページに発表された授賞要領参照）。そのため，あらかじめ社会保障関係の約60名の方々に対して，優秀なる論文の推薦を依頼し，8月末の締切日までに10数名の方々から解答をいただいた。推薦件数は18編あったが，そのうち条件の不適合のものを除き，結局12編が審査にかけられ，第1次審査で5編にしばったうえ，最終的に上記の2編が選考されたのである。

審査委員会では，選考された2編の等席順位について多少異論もあったが，多数決で上記のごとく決定した。それにしても，推薦された候補論文のなかで条件不適合のものが多かったことは残念である。論文選考については，優秀なものとすると同時に，とくに研究奨励の意図を含み，したがって既に多くの業績発表のある方々の論文は除くことにしたのであるが，この点は推薦者に対しやや趣旨の徹底を欠いていたように思う。

以下，2編の論文に対する各審査委員の諸意見をくんで，簡単に審査の要旨をとりまとめることにする。

岩本広史（石倉寛治，多田宏）「転期にたつ厚生行政」について

この論文は，現時の厚生行政のあり方について，広汎に問題点を解明するとともに，多くの積極的な提言を試みたものである。全体を政策編と組織編とに分け，政策編には経済水準上昇に応ずる所得保障政策の新展開と，社会的消費の増加に応ずるサービス保障政策の拡充の必要を述べてい

る。組織編には、補助金依存行政から企画・誘導行政への転換を説き、これに伴う行政機構の諸機能の促進を論じている。具体的な諸提言を試みている点については、ずばり物を言っていることを歓迎するという審査員の意見もあったが、提言に力点がおかれた結果、論文の体がやや崩れているとみる意見もあった。また、政策編にはやや未熟さが目立ち、むしろそこに含まれている現状認識や問題意識を買いたいという批判もあった。しかし、いずれにせよ明快な論述を通じて、極めて意欲的に厚生行政に取り組み、その打開をはかろうとする態度は、高く評価されてよいという点は、審査員の意見の一致したところであった。因みに、本論文の執筆者は、審査の過程ではペンネームでとり扱われたが、いま授賞の発表にあたり、上記のように、石倉、多田両氏の執筆であることを公表する。

市川 洋、「社会保険関数の試作」について

この論文は、社会保険について保険料および給付額をそれぞれ制度別に定式化し、これらを経済計画モデルのサブモデルとして展開しようとするものである。これまでの計画モデルでは、もっぱら外生値として総括的な保険料負担および振替所得を取り扱ったに過ぎないが、ここでは制度別にブレーク・ダウンが企てられ、過去10数年の統計を利用して、政府によるコントロールが可能な制度パラメーターを含む諸関数の定式化が試みられたのである。また、これまで保険数理の立場から保険制度自体のための精密な理論の展開はあったが、ここではたとえば賃金とか医療費とかいう保険以外の経済的ファクターに対する関係が考慮され、これによって計画モデルへの組み入れが企てられたのである。ただし、ここでのサブモデルをまとめて、国民所得ベースの計画モデルに直結するには、なお整理統合の工夫が必要であり、そのために著者自身も論文のタイトルに中間報告と断っているのである。したがって審査員のなかには、実用という点でなお不十分であるという意見もあったが、この種の企図が社会保障研究の分野で開拓的なものとして高く評価されてよいという点は審査員の一致した意見であった。たしかに、社会保障計画を単に構想として打出すだけでなく、論理的に政策パラメーターを明示していくことは、今後大いに促進さるべき研究態度であろう。

昭和45年11月

社会保障研究奨励賞論文審査委員会
委員長 山田雄三

本審査委員会の委員は次のごとくである。

山田雄三（社会保障研究所長）、鈴木武雄（武蔵大学教授）、馬場啓之助（一橋大学教授）、福武直（東京大学教授）、小山進次郎（厚生年金基金連合会理事長）、高橋武（ILO 東京支局次長）、小山路男（横浜市立大学教授）

既刊刊行物のリスト

「季刊社会保障研究」年5回発行
 「海外社会保障情報」年4回発行
 ILO 編「世界各国における社会保障の費用（1958年～1960年）」
 ILO 編「世界各国における社会保障の費用（1961年～1963年）」
 アメリカ保健教育福祉省編「世界各国の社会保障制度（1964年）」
 アメリカ保健教育福祉省編「世界各国の社会保障制度（1967年）」
 R. M. ティトマス著「福祉国家の理想と現実」（谷 昌恒訳）
 M. S. ゴードン著「社会保障の経済分析」（地主重美，向井利栄訳）
 「ベヴァリッジ報告・社会保険及び関連サービス」（山田雄三監訳）
 「社会保障研究序説」山田雄三著
 「インド社会保険の史的考察」平石長久著
 「家族周期と児童養育費—児童養育調査報告書—」中鉢正美編
 「戦後の社会保障」本論
 「戦後の社会保障」資料編

第4回社会保障研究所シンポジウム

日 時 昭和46年2月8日（月） 午前10時より
 場 所 弘済会館福祉センター（東京都千代田区麴町 5-1）
 テーマ：経済福祉と社会福祉（午前の部）
 レポーター：中鉢正美，コメンター：江見康一・地主重美，司会者：福武直
 テーマ：社会福祉における公私問題（午後の部）
 レポーター：仲村優一・一番ヶ瀬康子，コメンター：重田信一・阿部志郎・三浦文夫，
 司会者：嶋田啓一郎